

特集1 「初春特別インタビュー」

フランス政府から2度目の勲章、ネリーロディさん、おめでとう！

「フランス中にファッション革新の波を」

インタビュー T & F 編集長 山下征彦

FDCが提携しているフランス・パリのファッション情報企業・ネリーロディ社の社長ネリーロディさんがフランス政府からメダイユ・デュ・メリット勲章を受章した。98年のレジオン・ドヌール勲章に続いての受章だ。世界の繊維・ファッション業界発展への貢献とフランス国政府外郭団体の理事として同国ファッション産業の成長、発展に寄与した“ご褒美”だ。早速、インタビューを試みた。

おめでとうございます。

ありがとう。FDCを始め日本の繊維・ファッション業界の支えもあってのことです。これを励みにして、さらに頑張ります。日本の皆様、今後ご支援よろしくお願い申し上げます。

始めに、今回の受章理由についてお聞かせ下さい。

企業の最高責任者としての働きや国の経

済発展に貢献したということでしょうね。

国の経済発展への貢献とは、具体的には？
はい。政府の外郭団体であるIFTH（フランスにおけるテキスタイルとガーメントの機構）の理事の一員として、ファッション産業のクリエイションと技術革新の促進活動が認められたのだと思います。

女性の受章は多いのですか。

残念ながら、まだ少ないのが現状です。

クリエイションとイノベーション

フランスのファッション産業の現状をお聞かせ下さい。

日本もそうだと思いますが、中国製品に押されて厳しい状況にあります。ですからクリエイションと技術面でのイノベーションをさらに続け、高度化していかなばなりません。国中に革新の波を巻き起こそうというのが、

私たちの狙いです。そのために、みんなボランティアで活動に携わっています。IFTHには8個の分科会がありますが、それぞれが技術革新を進めています。

例えば？

3次元ニットや不織布技術などです。

伝統と近未来の融合に魅力

ネリーさんは、日本とのつながりが長いですね。

個人的に日本文化に魅了されています。会社を立ち上げたのは20年前ですが、それ以前からのお付き合いです。30年前からになるかしら。タイやポルトガルでも政府の仕事

を手伝っていますが、私にとって日本は思い入れの深い特別な国なのです。

どこが特別なのですか。ともすれば、我々日本人はその良い点を忘れがちです。

日本は伝統と近未来の融合といいますが、伝統と先端技術を見事にミックスさせてい

ます。そこに力強さを感じています。伝統は一度失われてしまうと取り戻すことはできません。失ってはならないものです。

ありがとうございます。伝統と先端技術の融合は尾州産地が生きる、ひとつの方向だということに同感します。

特に伝統はその国、その地方のオリジナルですからね。どこにでもあるものではありません。

今後の抱負をお聞かせ下さい。

亡くなった母は上院議員を務め、彼女も勲章を受けています。私にとって母はあこがれの対象ですが、自分が母のように受章するとは思っていませんでした。それだけに誇りに思っています。大好きなモードとテキスタイルの仕事にこれまで以上に力を注ぎたいと思います。決意を新たにしております。

中国に負けない商品で雇用拡大

叙勲のインタビューの中で、この質問は不謹慎かもしれませんが。最後に最近、フランスで起きた若者の暴動はファッションイメージの強いフランスとは馴染まないと思います。

いいえ、不謹慎な質問ではありません。その通りで、懸念しています。問題は若者の雇用問題です。私たちにできることは、中国に負けない製品を作ることで、雇用を生み出す

ことです。この前の暴動は若者に仕事が無いことも大きな要因の一つなのです。今、地中海沿岸地帯は雇用の真空地帯になっています。そこで、雇用を増やすためのプロジェクトも進めています。

見通しは？

最初は少ないかもしれませんが、効果は少しずつ上がってくるものだと思っています。長時間、ありがとうございました。

インタビューを終えて

話は叙勲から、フランスのファッション業界の現状、お母さんのこと、若者の暴動のことなど、多岐に渡った。まず感じたのはネリーさんは、ファッションという立場にいながら、世の中のすべてに感触を張り巡らせている点だ。フランス産業の今後、中国製品の氾濫、若者の暴動などにそれぞれ一貫した明快な回答を持っていた。ファッションが文化産業なる所以であろう。日本への評価の中で「伝統と先端技術の融合に力強さを感じて

いる」と話していたが、まさにここに尾州産地の方向が明示されているように思えた。自国の若者の暴動に関して「中国に負けない製品を作り、雇用を生み出す」と話したが、同じ環境に置かれている日本のファッション業界で「雇用創造」まで考える企業人は何人いるのだろうか、寂しさを覚えた。また「一度失われた文化は取り戻せない」との発言は尾州産地に「産業文化伝承」を訴えているように感じた。